東奥文芸
叢書
俳句13

三ヶ森青雲句集

Mikamori Seiun

a collection of haiku

東奥日報

三ヶ森青雲句集

東奥日報社

東奥文芸叢書　俳句13
三ヶ森青雲句集

発　行　二〇一五（平成二十七）年一月十日
著　者　三ヶ森青雲
発行者　塩越隆雄
発行所　株式会社　東奥日報社
〒030-0180　青森市第二問屋町3丁目1番89号
電　話　017-739-1539（出版部）
印刷所　東奥印刷株式会社

Printed in Japan ©東奥日報2014　許可なく転載・複製を禁じます。定価はカバーに表示してあります。乱丁・落丁本はお取り替え致します。

ISBN－978－4－88561－178－0　C0092　¥1200E

目次

十代　昭和三十三年～三十四年……1
二十代　昭和三十六年～四十五年……3
三十代　昭和四十六年～五十五年……13
四十代　昭和五十六年～平成二年……27
五十代　平成三年～十一年……51
六十代　平成十三年～二十二年……79
七十代　平成二十三年～二十五年……117
あとがき……130

十代

昭和三十三年～三十四年

三句

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

朱き柿暮れ残るマルクス少し読む

蒲公英の怒涛に向きて絮飛ばす

仔牛ゐて冬木の瘤に角磨く

二十代

昭和三十六年～四十五年

二十六句

「幸福論」夜寒の影を負ひて読む

吹かれ来てビラの貼りつく大冬木

榾火崩れ民話は鬼の出るところ

酷寒や農婦の無口子に移り

冬薔薇一書買ひ得て心満つ

太氷柱連ねて生家古りにけり

「罪と罰」読み了へぬ冬の虹青し

鶏雀る農夫に冬田暮るるべし

鶯や峡の七戸に旭がとどき

田搔馬没日後の足狂ひ出す

腕時計のみきらきらと夏痩す

淋代海岸

炎天の浜に涼しく蛇のあと

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

日焼の母農ひとすぢの皺刻み

田草取いづこを向くも雲群れて

ホップ摘む女全身夕焼けて

伯楽の去ればさみしき踏込炉

久々の母の盛装深雪晴

婚を約して数日後

息白く妻となる人近づき来

五月五日結婚、妻二十二歳

歩を合はす妻の肩越し桐の花

盛り場の灯の数梅雨に入りにけり

産着縫ふ妻に向日葵咲き出せり

昭和四十五年二月二十八日から十五日間アメリカ西部セミナーに参加。昼は視察、夜はセミナーのハードスケジュールなり

サンフランシスコ

タラップを降りてアメリカ春の風

金門橋見ゆる波止場や春浅し

ロスアンジェルス

届きゐる妻の手紙や朧月

ハリュウドの椰子の並木や風光る

ホノルル

レイ受けてはにかむばかり春の風

三十代

昭和四十六年～五十五年

三十八句

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com